



1人ひとりの個性をはぐくむ



代表
久保勝喜 さん

工業高校卒業後、4年ほど会社勤務。福祉専門学校で学び直し、介護老人保健施設や障がい者通所施設、就労支援施設、障がい児施設などで活躍した後、2023年1月「合同会社フェリックス」設立、同5月、放課後等デイサービス開始。

障がいのある子に寄り添う姿勢鮮明 独自理念で放課後等デイサービス開始

社会性が身に付く支援
児童福祉の現状を憂慮

「子どもたちの『やってみよう』とする気持ちを応援できる場所にした。」

2023年4月、長崎県諫早市に障がいや発達に特性のある児童生徒を預かる放課後等デイサービス「ぶれいらんど本町」を開設した「合同会社フェリックス」代表の久保勝喜さんの思いだ。重度の自閉症や車椅子を使わざるを得ない身体障がいのある子どもたちの受け入れ先が十分に整っていない現状を憂慮する心が開設の動機になったという。「ぶれいらんど本町」は、小学1年から高校3年までが対象で定員は10人。放課後のほか学校休日や長期休暇中にも預かる。放課後の場合、下校時刻に合わせて送迎車で学校に迎えに行き、最大午後6時まで預かり、子ども一人ひとりに与えた課題への取り組み、余暇活動、集団活動などを行う。

「生活に見通しをもって過ごせるようにスケジューリングを立て、遊びと学習のエリアを分けることで、どこで、何をするのかわかりやすい環境を整えました。この中で、学校や年齢の違う子どもたちが一つの場所で子ども同士の関わり方を学び、ルールを守り、社会性を身に付け、将来お子さまが

社会の一員として暮らしていけるような様々な支援を行ないます。また子どもたち一人ひとりに合わせ、遊具を使った運動で身体機能の向上も図ります。こうした取り組みがご家族を社会的に支援することに繋がると思っています」

久保さんは、工業高校で学んだが、共働きの両親に代わって育ててくれた祖母が認知症を患ったことから介護に関心を持ち、福祉の専門学校で学び直し、介護老人保健施設や障がい者通所施設、就労支援施設、障がい児の施設などで活躍した後、独立して放課後等デイサービスを立ち上げた。その背中を押したのは障がい児福祉の現状だ。

「障がい児福祉施設の数は増えていますが、どんな子どもを受け入れても基本的な報酬単価はほぼ同じなことから、障がいや軽度の子どもを受け入れる傾向があり、重度障がいの子どもや車椅子の子どもが行き場を失ったりしてしまうケースが多く、そういった子どもたちの受け皿になったら」と思い、放課後等デイサービスを始めたのです。今後は、「ぶれいらんど本町」で預かった子どもたちが大人になってからも困らないよう大人まで一貫して支援を行えるような就労支援や生活介護にも活動を広げていくことを目指すという。

ライター／斎藤 結

合同会社 フェリックス

☎ 0957-47-9804
✉ info@playland-day.com
📍 長崎県諫早市本町3-14 IMビル
https://playland-day.com/

